

茨城県生物多様性センター一年報

No. 10 令和6（2024）年度版

令和6（2024）年4月～令和7（2025）年3月

茨城県県民生活環境部環境政策課
生物多様性センター

まえがき

当センターは、平成27（2015）年4月、生活環境部（現 県民生活環境部）環境政策課に設置され、令和7（2025）年3月で10年が経過しました。設置以来、本県における生物多様性の保全とその啓発普及に取り組み、国や県の研究機関をはじめ、環境諸団体や県民との情報共有に努めるとともに、各種調査・事業を実施して参りました。

近年、当センターの活動に占める外来生物対応の業務割合が増加しつつあります。

中でも、特定外来生物のナガエツルノゲイトウは近年、霞ヶ浦周辺で分布域が拡大し、農地への侵入も確認されているため、対策に力を注いでいます。また、クビアカツヤカミキリやツヤハダゴマダラカミキリなど、外来カミキリ類の樹木への被害や分布拡大も深刻であることから、成虫の捕獲奨励制度を創設いたしました。

さらに、大きな懸念材料として浮上しているのは、房総半島南部で大繁殖しているシカの一種、キヨンの本県への侵入です。すでに、神栖市や石岡市など、県内各地で目撃事例や死体の発見事例が散発しています。定着を未然に防ぐため、捕獲や情報提供に対する褒賞金制度を立ち上げるなど、初期対応を強化しています。

希少動植物の保護については、ツクバハコネサンショウウオの生息状況調査のうち、環境DNA調査が城西大学の協力によって継続されました。環境DNAによる分布調査技術の実用化により、現地踏査によるモニタリングより省力化され精度の高まりが期待されます。ツクバハコネサンショウウオやカドハリイなどの生息・生育環境の保全については、引き続き、関連機関・団体と協議・実施して参ります。

こうした中で、平成26（2014）年の策定以来10年が経過した「茨城の生物多様性戦略」について、短期計画の見直しを行い「茨城の生物多様性地域戦略」アクションプラン2025-2034（案）を検討しました。また、令和5年度に再改定に着手した「茨城における絶滅のおそれのある野生生物 植物編 2012年改訂版（茨城県版レッドデータブック）」の見直し作業を今年度も継続しました。

令和7年度も、生物多様性や生態系の保全、その持続的な活用を推進してまいりますので、皆様のご理解・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

令和7年8月

茨城県県民生活環境部環境政策課
生物多様性センター長 山根爽一



生物多様性のホットスポット妙岐ノ鼻

目 次

I 生物多様性センターの概要	3
II 主な活動実績	
1 普及啓発事業	
(1) 生物多様性および特定外来生物の啓発	4
(2) 特定外来生物の除去など、啓発イベントの支援	4
(3) 環境関連イベントへの出展	6
(4) 生物多様性等に関する出前講座等の実施	7
(5) 筑波山臨時ビジターセンター	9
(6) 他自治体への委員派遣	9
2 情報の収集及び提供	
(1) 外来生物関連の相談対応・情報の提供	9
(2) データベースの公開	10
(3) ホームページの活用	10
(4) 第27回 自然系調査研究機関連絡会議（NORNAC 27）への参加	10
III 調査・研究・対策	
1 調査・研究	
(1) 「茨城の生物多様性戦略」（短期目標）の見直し（アクションプランの検討）	11
(2) 茨城県レッドリスト（植物編）の見直し（継続）	11
(3) ツクバハコネサンショウウオ生息状況調査	12
(4) その他の調査	12
(5) 生物多様性に関する刊行物と集会等での発表	12
2 対策	
(1) 新利根川流域における特定外来生物（植物）の除去	13
(2) 特定外来生物 カミキリムシ類とキヨンの防除対策－奨励金・褒賞金制度の創設	14
(3) 希少野生動植物の保護	15

I 生物多様性センターの概要

1 設置の目的

県が平成26（2014）年10月に策定した「茨城の生物多様性戦略」の提言に基づき、生物多様性関連施策の推進拠点として、平成27（2015）年4月1日に設置。

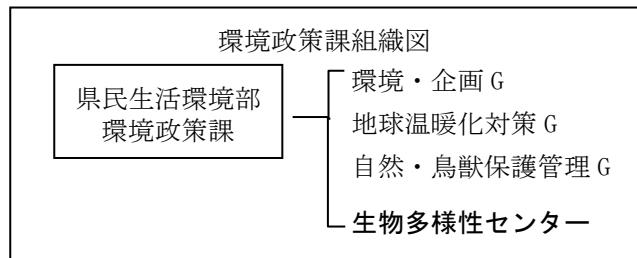
2 組織（令和6（2024）年4月1日現在）

右図のように、茨城県県民生活環境部環境政策課に属し、一体となって業務を推進している。

【職員構成】

センター長を含め、9名の職員で構成。

センター長（非常勤）、副参事（自然・鳥獣保護管理グループ兼務）、課長補佐（自然・鳥獣保護管理グループ兼務）、主査2名、会計年度任用職員4名（国定公園管理員2名、自然環境調査員2名）



3 主な業務

① 地域戦略の普及啓発

講演会や県民との意見交換会等を通じ「茨城の生物多様性戦略」の普及啓発を行う。

② 県内の生物に関する情報の収集及び発信

県や研究機関、市町村、環境団体などが持つ県内の生物の分布や生息状況に関する情報を収集し、広く県民に発信する。

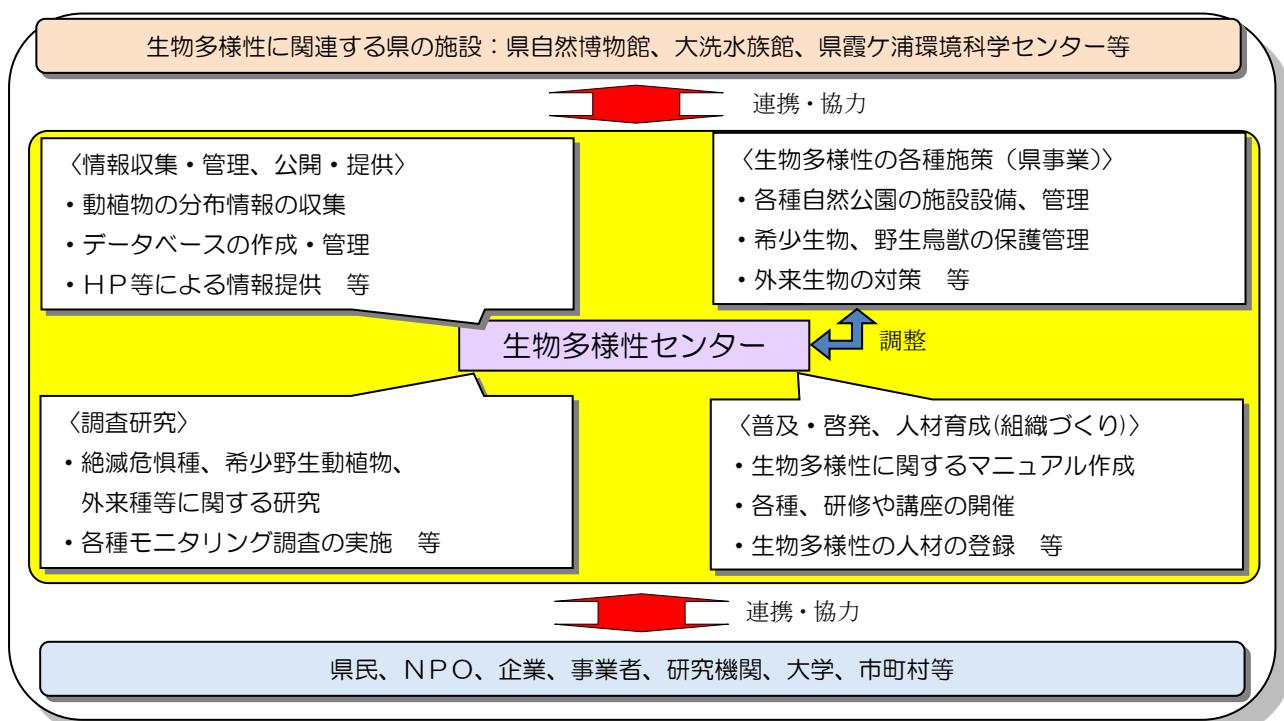
③ 環境団体等との連携

県内外の環境団体との情報共有を進め、各種調査や外来生物防除対策への協力体制を構築する。

④ 各種調査の実施

希少野生生物の現状把握や外来生物の侵入・定着状況を把握するための調査を実施する。

【茨城の生物多様性戦略における生物多様性センターのイメージ】



II 主な活動実績

1 普及啓発事業

(1) 生物多様性および特定外来生物の啓発

生物多様性を啓発するための「生物多様性って知っていますか?」と特定外来生物の解説「県内の主な特定外来生物(植物)」の解説リーフレットを、本年度も県内の環境関連イベントや出前講座などで配布した。

外来生物については、新たにカミキリムシのリーフレット「樹木を食い荒らし枯らす 特定外来生物 クビアカツヤカミキリ、ツヤハダゴマダラカミキリ 警戒中!!」を作成し、関係機関やイベント等で配布した。その中で、本年度に立ち上げたカミキリの捕獲推進のための奨励金制度「いばらきカミキリみつけ隊」の活動を紹介し、小中学生をはじめとする県民の協力を呼びかけた結果、延べ230人による3,782個体の持ち込みがあった。

さらに、近年、県内への侵入が目立つようになったシカの一種、キヨンについてのリーフレット「生態系に被害を及ぼす特定外来生物 キヨンへの対応について」を作成し、関係機関などに配布している。

この中で、本年度に創設されたキヨン目撃情報提供・捕獲褒賞金制度について解説し、侵入の初期段階にあるキヨンの定着防止のための協力を広く県民に呼びかけた。



特定外来生物のリーフレット 左：クビアカツヤカミキリとツヤハダゴマダラカミキリ、右：キヨンへの対応について

(2) 特定外来生物の除去など、啓発イベントの支援

生物多様性の重要性を啓発し、生物多様性や生態系の保全活動を促進することを目的として、各種団体等による特定外来生物の植物を除去するイベントを支援した。新型コロナ感染症による行動規制の緩和により、活動は以前の状態に戻りつつあり、活動を通じて生物多様性の保全や地域の自然環境への理解・関心を高める契機とすることができた。

- ① かすみがうら市（旧霞ヶ浦町地域中心）オオキンケイギク除去
実施日：令和6年5月7日（火）
参加団体／参加者数：ヨモギの会（主催団体）、かすみがうら市職員、県生物多様性センター／15名
- ② ひたちなか市県道31号線から多良崎城跡への分岐点オオキンケイギク除去
実施日：令和6年5月18日（土）
参加団体／参加者数：工機ホールディングス株、ひたちなか市環境政策課、県生物多様性センター／一／9名
- ③ 銚田市（旧銚田町・旧旭村地域中心）オオキンケイギク除去
実施日：令和6年5月19日（日）
参加団体：銚田市まちづくり推進会議自然環境部会、県生物多様性センター／10名
- ④ 笠間市笠間東工業団地入口オオキンケイギク除去
実施日：令和6年5月25日（土）
参加団体／参加者数：笠間市環境を考える会、笠間市環境政策課、県環境政策課／40名
- ⑤ ひたちなか市佐和地区オオキンケイギク除去
実施日：令和6年5月26日（日）
参加団体／参加者数：さわ野杜自治会、ひたちなか市の環境を良くする会、ひたちなか市環境政策課、県生物多様性センター／30名
- ⑥ 銚田市オオキンケイギク除去
実施日：令和6年5月26日（日）
参加団体／参加者数：銚田市、銚田市まちづくり推進会議環境部会、県生物多様性センター／10名
- ⑦ 水戸市逆川緑地外来生物除去
実施日：令和6年6月1日（土）
参加団体／参加者数：逆川こどもエコクラブ、県環境管理協会、明治安田生命水戸市支社、県生物多様性センター／55名
- ⑧ 那珂市豊喰地区オオキンケイギク除去
実施日：令和6年6月3日（日）
参加団体／参加者数：那珂市自然環境部、那珂市環境課、県生物多様性センター／15名
- ⑨ 銚田市環境学習施設エコ・ハウス周辺オオフサモ除去
実施日：令和6年6月9日（日）
参加団体／参加者数：銚田市まちづくり推進会議、銚田市環境部、県生物多様性センター／14名
- ⑩ 水戸市千波湖ビオトープ作り、昆虫観察、オオキンケイギク除去
実施日：令和6年6月9日（日）
参加団体／参加者数：水戸市、逆川こどもエコクラブ、茨城県環境管理協会、茨城生物の会、県生物多様性センター／80名
- ⑪ 那珂市菅谷地区オオキンケイギク除去
実施日：令和6年6月10日（月）
参加団体／参加者数：那珂市、なか環境市民会議、県生物多様性センター／20名
- ⑫ ひたちなか市東石川オオキンケイギク除去
実施日：令和6年7月4日（木）

- 参加団体／参加者数：六ツ野自治会有志、ひたちなか市、県生物多様性センター／7名
- ⑬ 常陸大宮市高部オオハンゴンソウ除去
実施日：令和6年7月9日（火）
参加団体／参加者数：常陸大宮市、常陸大宮森林組合、県生物多様性センター／10名
- ⑭ 城里町小勝オオハンゴンソウ除去
実施日：令和6年7月24日（水）
参加団体／参加者数：城里町、県生物多様性センター／3名
- ⑮ 常陸太田市里川地区オオハンゴンソウ除去
実施日：令和6年7月30日（火）
参加団体／参加者数：常陸太田市、県生物多様性センター／4名



千波湖ビオトープ作り、昆虫観察、オオキンケイギク除去（水戸市、令和6年6月9日）



ナガエツルノゲイトウの抜き取り
妙岐ノ鼻霞ヶ浦湖畔（令和6年11月7日）

（3）環境関連イベントへの出展

県内で開催されたイベントに参加し、生物多様性等の啓発パネルの展示や啓発チラシの配布を行った。

① 常設展示

実施日：令和6年4月1日（月）～令和7年3月31日（月）

会場：県庁行政棟2階県民広報コーナー

内容：生物多様性に関するパネルの展示

② 「国際世界生物多様性の日（5月22日）パネル展示」

実施日：令和6年5月16日（木）～5月23日（木）

会場：県庁行政棟2階県民広報コーナー

内容：パネル展示 「生物多様性」って知っていますか？／実はこんなに大切「生物多様性」／「生物多様性を守る」ということ／カドハリイの種の保存法における国内希少野生動植物種の指定と希少な生態系の保全について／「生物多様性」を脅かす外来種／「特定外来生物」が皆さんのもわりにも／特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」の早期発見及び駆除について／オオキンケイギクの駆除について、他

③ 第19回土浦市環境展

実施日：令和6年10月12日（土）

会場：土浦市霞ヶ浦文化体育会館

内 容：生物多様性に関するパネルの展示

(4) 生物多様性等に関する県政出前講座等の実施

令和6年度は10件の講座等を実施した。

① 県政出前講座：生物多様性 五霞町立五霞小学校

実 施 日：令和6年6月12日（水）

場 所：五霞町立五霞小学校

講 師：井上尚武・佐々木泰弘（県生物多様性センター）

参 加 者：小学校3年生 40名

内 容：生物多様性とは何かについて解説した。また、近年問題になっている外来生物についても、クビアカツヤカミキリとツヤハダゴマダラカミキリについて、実物標本、パネル、プリントなどを使って解説した。

② 県政出前講座：外来カミキリ 下妻市立大形小学校

実 施 日：令和6年7月2日（火）

場 所：下妻市立大形小学校

講 師：井上尚武・佐々木泰弘（県生物多様性センター）

参 加 者：小学校3・4年生 40名

内 容：外来生物とは何かを解説。クビアカツヤカミキリとツヤハダゴマダラカミキリについて、形態の特徴、原産地、被害状況、茨城県での発見地などを実物標本、パネル、プリントなどで説明した。ツヤハダゴマダラカミキリと在来近似種の違いを解説し、模型を見て判別するクイズを行った。

③ 県政出前講座：外来カミキリ 古河市立西牛谷小学校

実 施 日：令和6年7月10日（水）

場 所：古河市立西牛谷小学校

講 師：井上尚武・佐々木泰弘（県生物多様性センター）

参 加 者：小学校6年生 31名

内 容：第6学年の児童に、生物多様性や外来生物をはじめ、特定外来生物クビアカツヤカミキリの特徴や生態について解説した。カミキリの樹脂標本と被害樹木の標本を教室に展示し、「カミキリみつけ隊」について児童に協力を呼びかけた。

④ 県政出前講座：外来カミキリ 筑西市立河間小学校

実 施 日：令和6年7月16日（火）

場 所：筑西市立河間小学校

講 師：井上尚武・佐々木泰弘（県生物多様性センター）

参 加 者：小学校3・4年生 19名

内 容：生物多様性や外来生物をはじめ、特定外来生物であるクビアカツヤカミキリの特徴や生態について解説した。カミキリの樹脂標本と被害樹木の標本を教室に展示し、「カミキリみつけ隊」について児童に協力を呼びかけた。

⑤ 県政出前講座：外来カミキリ 笠間市立笠間小学校

実 施 日：令和6年7月23日（火）

場 所：笠間市立笠間小学校

講 師：井上尚武・佐々木泰弘（県生物多様性センター）

参 加 者：小学校6年生 20名

内 容：生物多様性や外来生物をはじめ、特定外来生物であるクビアカツヤカミキリの特徴や生態について解説した。カミキリの樹脂標本と被害樹木の標本を教室に展示し、「カミキリみつけ隊」について児童に協力を呼びかけた。

⑥ ひたちなか市主催講座「学びのとびら」：どうする？ひたちなか市の自然－生物多様性から考える－（出前講座として実施）

実 施 日：令和6年8月23日（金）

場 所：ひたちなか市 「ふあみりこらぼ」

講 師：山根爽一（県生物多様性センター）

参 加 者：一般市民 30名

内 容：生物多様性の意味とその必要性を知り、自然豊かな日本のひたちなか市で暮らす私たち一人一人が、自然や生物多様性を守るために、どのようなことに取り組んでいけばよいかを学んだ。

⑦ 県政出前講座：外来カミキリ 取手市立取手西小学校やまびこクラブ

実 施 日：令和6年8月26日（月）

場 所：取手市立取手西小学校

講 師：高橋郷史・佐々木泰弘（県生物多様性センター）

参 加 者：小学校2～5年生 17名、クラブ指導者 3名

内 容：外来生物のクビアカツヤカミキリとツヤハダゴマダラカミキリについて説明したのち、持参したアカミミガメとクサガメを見せながら、外来カメなどの話をした。児童たちは、特に生きたカメに強い関心を示した。

⑧ 県政出前講座：外来カミキリ 取手市立戸頭小学校たけのこクラブ

実 施 日：令和6年8月30日（金）

場 所：取手市立戸頭小学校

講 師：高橋郷史・佐々木泰弘（県生物多様性センター）

参 加 者：小学校2～5年生 38名、クラブ指導者 3名

内 容：外来生物のクビアカツヤカミキリとツヤハダゴマダラカミキリについて説明したのち、持参したアカミミガメとクサガメを見せながら、外来カメなどの話をした。児童たちは、特に生きたカメに強い関心を示した。



筑西市立河間小学校
令和6年7月16日



取手市立戸頭小学校
令和6年8月30日

- ⑨ 県政出前講座：生物多様性 つくば市立春日学園義務教育学校
実施日：令和6年9月20日（金）
場所：つくば市立春日学園義務教育学校
講師：佐々木泰弘・茂垣はるえ（県生物多様性センター）
参加者：第9学年（中学3年生）42名
内容：① 絶滅危惧種：ツクバハコネサンショウウオとカドハリイ、② 外来生物：外来カミキリとナガエツルノゲイトウ、③ 外来生物による被害
- ⑩ 県政出前講座：外来生物（一社）いばらき樹木医会
実施日：令和6年9月21日（土）
場所：石岡市中央公民館
講師：高橋郷史・佐々木泰弘（県生物多様性センター）
参加者：樹木医 約10名
内容：「キヨン」及び外来生物についての茨城県の現況と取り組みについて
- ⑪ ひたちなか市『環境シンポジウム 2025』（講評）
実施日：令和7年2月8日（土）
場所：那珂湊総合福祉センター しあわせプラザ
講評者：山根爽一（生物多様性センター）
参加者：発表団体関係者と一般市民 約50名
内容：小学校、高校、専門学校、企業の計5団体による、環境活動事例の発表について、主に生物多様性の観点から講評を行った。

（5）筑波山臨時ビジターセンター

例年、国民の祝日「山の日」（8月11日）前後に開催してきた、筑波山臨時ビジターセンターは、新型コロナウイルス感染症の影響により変則的に実施されてきたが、昨年度の行動規制緩和を受けて、今年は15名の筑波山サポートーの協力を得るなど、元に戻りつつある。

実施日：令和6年8月2日（金）～8月4日（日）
会場：筑波山ケーブルカー 筑波山頂駅 2階
内容：パネルと標本展示（筑波山の動物・昆虫・植物・岩石）による筑波山の紹介、自然観察会
来場者：253名

（6）他の自治体への委員等の派遣

- ① 生物多様性つくば戦略策定懇話会（座長 上條隆志 筑波大学教授）
茨城県および学識経験者の委員として、当生物多様性センターの山根爽一が派遣された。
令和6年度は第7～9回の委員会に出席し、「生物多様性つくば戦略」は第9回委員会をもって完成した。

2 情報の収集及び提供

（1）外来生物関連の相談対応・情報の提供

生物多様性や自然環境、外来生物に関する電話や電子メールによる問い合わせ・情報提供に広く対応した。相談件数は約300件に及び、中でもヒアリやアカミミガメ、カミツキガメ、セアカゴケグモ等、特定外来生物に関する問い合わせが多く、誤認も含めて250件程度あった。問い合わせ内容

に応じて現地調査を実施し、県内の研究機関や専門家による当該生物の正確な同定を行った。また、分布が拡大している特定外来生物のクビアカツヤカミキリ及びツヤハダゴマダラカミキリの早期発見と駆除を呼びかけるリーフレットや、本県への侵入が懸念されるキヨンの早期発見と捕獲を呼びかけるリーフレットを作成配布した。

(2) データベースの公開

平成28(2016)年度に茨城の野生動植物データベース(URL <https://tayousei.pref.ibaraki.jp/>)を開設し、レッドデータブック(植物編2012年版、動物編2016年版、及び蘚苔類・藻類・地衣類・菌類編2020年版)の掲載種を検索できるよう公開した。さらに、生物文献データベースには、県内の在野の同好者や研究者による生物系同好会誌や研究会誌などの逐次刊行物に掲載された論文や記事の概要を順次公開し、引き続き充実を図っている。

(3) ホームページの活用

生物多様性についての理解を深め、生物多様性を保全するため、県ホームページなどを使って活動情報の発信を行った。本年度4月に創設したカミキリムシの捕獲を推進する「いばらきカミキリみつけ隊」やキヨンに関わる情報提供、捕獲に対する褒賞制度についても掲載している。

生物多様性センターURL : <https://www.pref.ibaraki.jp/seikatsukankyo/shizen/tayousei/index.html>

茨城の野生動植物データベース検索結果例

「いばらきカミキリみつけ隊」募集チラシ

(4) 第27回自然系調査研究機関連絡会議(NORNAC 27)への参加

都道府県等の自然系調査研究機関及び環境省機関で構成される、自然系調査研究機関連絡会議に参加し、情報収集を図った。今年度は環境省生物多様性センターと神奈川県立生命の星・地球博物館の共同で小田原市において開催されたが、県生物多様性センターからは2名が参加し、11月20日(水)に行われた調査研究・活動事例発表会では、妙岐ノ鼻湿原における希少植物、カドハリイの生態

と保全についてポスター発表（p. 13 参照）を行った。

開催日：令和6年11月19日（火）～20日（水）

会場：神奈川県立生命の星・地球博物館（神奈川県小田原市）

III 調査・研究・対策

1 調査・研究

（1）「茨城の生物多様性戦略」（短期目標）の見直し（アクションプランの検討）

「茨城の生物多様性戦略」は平成26（2014）年の策定以来、10年が経過したため、短期目標の見直しを行い、「茨城の生物多様性戦略」アクションプラン2025-2034（案）の検討を行った。

令和4年（2022年）に「昆明・モントリオール生物多様性枠組」が採択され、令和5年（2023年）には国によって「生物多様性国家戦略2023-2030」が策定された。国家戦略の令和12（2030）年に向けた目標として、自然を回復軌道に乗せるため生物多様性の損失を止め反転させるという「ネイチャーポジティブ（自然再興）」の実現が掲げられている。この基本思想に則り、国は2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全するという「30 by 30」目標の達成を目指し、保護地域やOECM（保護地域以外で生物多様性保全に資する地域）を増やすため、国立・国定公園の拡張に加えて、自然共生サイトの認定等を推進している。また、「生物多様性と生態系サービスに関する地球規模評価報告書」によると、気候変動は、地球全体の自然を変化させている直接要因の一つであり、気候変動の進行に伴って、生物多様性に与える悪影響は増大すると予測されている。

このように、生物多様性の保全に関わる「昆明・モントリオール生物多様性枠組」や気候変動の影響という大きな枠組みの変更を受けた国の動きにも配慮しつつ、本アクションプランをまとめることとした。

○ 茨城県生物多様性地域戦略検討委員会（第1～4回）

（委員6名）

◎委員長：松崎慎一郎（国立環境研究所生態系機能評価研究室）

委員：安嶋 隆（東海村立歴史と未来の交流館）

委員：加納光樹（茨城大学地球・地域環境共創機構水圏環境フィールドステーション）

委員：後藤優介（ミュージアムパーク茨城県自然博物館）

委員：成田行弘（茨城県環境アドバイザー）

委員：沼尻輝夫（つくば市生活環境部環境保全課）

○ 検討委員会開催実績（令和6年度）

第1回：令和6年9月6日（金）（書面による開催）

第2回：令和6年10月22日（火）

第3回：令和6年12月17日（火）

第4回：令和7年2月21日（金）

アクションプランの作成に当たっては、（株）プレック研究所（東京）の協力を得た。

（2）茨城県レッドリスト（植物編）の見直し（継続）

○ 茨城における絶滅のおそれのある野生植物種の見直し検討委員会（第5～8回）*

(委員10名、顧問4名)

◎委員長：安嶋 隆（東海村立 歴史と未来の交流館）

委員：伊藤彩乃（ミュージアムパーク茨城県自然博物館）

委員：内山治男（茨城植物研究会）

委員：榎本友好（牛久市農業委員会）

委員：小幡和男（茨城県霞ヶ浦環境科学センター）

委員：国府田誠一（ミュージアムパーク茨城県自然博物館）

委員：高橋郷史（茨城県生物多様性センター）

委員：田中法生（国立科学博物館 つくば実験植物園）

委員：茂垣はるえ（茨城県生物多様性センター）

委員：和田 充（茨城植物研究会）

顧問：中崎保洋（茨城植物研究会）

顧問：福田良市（茨城植物研究会）

顧問：藤田弘道（茨城植物研究会）

顧問：安 昌美（茨城植物研究会）

○ 検討委員会開催実績（令和6年度）

第5回 開催日：令和6年5月8日（水）

第6回 開催日：令和6年8月21日（水）

第7回 開催日：令和6年10月30日（水）

第8回 開催日：令和7年1月29日（水）

* 「茨城県レッドリスト維管束植物検討委員会（仮称）準備委員会」は令和4年度に、「茨城における絶滅のおそれのある野生植物種の見直し検討委員会」の第1～4回は令和5年度に開催した。

（3）ツクバハコネサンショウウオ生息状況調査

○ 環境DNAによるツクバハコネサンショウウオの分布調査

これまでに実施したツクバハコネサンショウウオの現場踏査による生息状況の調査結果をベースに、より正確で詳細に把握するために、昨年度に続き、城西大学理学部（石黒直哉教授）において沢水の環境DNAを分析し、分析手法や得られた結果について評価・検討した。実施したほとんどの沢では、現地踏査と環境DNAによるツクバハコネサンショウウオ幼生の検出結果は整合したが、一部の沢では現地踏査で確認されたもののDNA検査では検出されなかった。その原因の究明が今後の大きな課題となった。

（4）その他の調査

○ 動植物等の生息状況調査

「茨城県版レッドデータブック」や「茨城の外来種データブック 2023年版」に掲載された希少生物種や外来種を中心に、随時、県内の動植物等の生息状況を調査した。

○ 未侵入特定外来生物の調査

未侵入特定外来生物のうち、特に侵入を警戒すべき生物（キヨン、ヌートリア、カミツキガメなど）について、ホームページ掲載やチラシの配布により、目撃情報等の提供を県民に広く呼びかけるとともに、随時現地調査を実施した。

（5）生物多様性に関する刊行物と集会等での発表

- 茂垣はるえ. 2024. 種の保存法における国内希少野生動植物種のカドハリイの紹介と保全. 第27回 自然系調査研究機関連絡会議 (NORNAC 27) (2024年11月20日, 神奈川県立生命の星・地球博物館, ポスター発表).
- 石黒直哉. 2025. 令和6年度 希少野生生物分布調査にかかる環境DNA分析. 9 pp., 茨城県県民生活環境部環境政策課 茨城県生物多様性センター. (非公開)
- 茨城生物文献調査会. 2025. 茨城県の動物・植物の本 総目録. 167 pp., ミュージアムパーク茨城県自然博物館. (「茨城生物文献調査会」は県生物多様性センターと県自然博物館が共同で立ち上げた調査組織)

2 対策

(1) 新利根川流域における特定外来生物（植物）の除去

新利根川（支流河川及び幹線排水路を含む）におけるミズヒマワリ、オオフサモ、ナガエツルノゲイトウの除去を推進するため、関係機関との連絡協議会開催等を行った。

○ 新利根川流域ナガエツルノゲイトウ等除去に係る連絡協議会の開催

前年度に続き、新利根川流域等ナガエツルノゲイトウ等除去に係る連絡協議会を開催し、関係機関と情報の共有及び意見交換を行った。

・協議会における確認、協議事項

- ① 新利根川流域地域におけるナガエツルノゲイトウ等の生育状況
- ② 構成団体の活動状況
- ③ 広報・啓発の実施
- ④ 防除実施計画の策定・変更

・構成団体

茨城県、龍ヶ崎市、稲敷市、河内町、利根町、新利根川土地改良区、豊田新利根土地改良区

・連絡協議会の開催

第1回連絡協議会

日 時：令和6年6月28日（金）

内 容：ナガエツルノゲイトウ等の生育状況、構成団体の活動計画等について

第2回連絡協議会

日 時：令和7年2月14日（金）

内 容：農業水利施設外来水生植物駆除緊急対策事業の実施状況、ナガエツルノゲイトウ等の生育状況、構成団体の活動状況等について

○ 新利根川流域における特定外来生物（植物）定期巡視による繁茂状況の調査

新利根川およびこれに流入する幹線水路に合計37の観察点を設定して、5回にわたってナガエツルノゲイトウの分布や繁茂状況を調査した。

第1回：令和6年4月24日、5月1日

第2回：令和6年6月19日

第3回：令和6年9月24日、27日

第4回：令和6年12月25日、27日

第5回：令和7年2月17日、19日

○ 新利根川ナガエツルノゲイトウ合同駆除の実施

新利根川の各エリアにおいて、流域4市町（稻敷市、河内町、利根町、龍ヶ崎市）及び関係者による合同駆除作業を実施した。

日 時：令和6年11月22日（金）

参 加 者：合計 約60名

- ・4市町職員（土地改良区など団体職員含む）約30名
- ・国関係機関（霞ヶ浦河川事務所、水資源機構）約10名
- ・県関係機関（農村計画課、農業技術課、河川課、県南農林、稻敷土地改良、

龍ヶ崎工事、環境政策課）約20名

場 所：4市町それぞれの新利根川の繁茂箇所

- (1) 稲敷市（稻敷市大須賀機場（幸田）付近）
- (2) 河内町（河内町早井機場付近）
- (3) 利根町（利根町新利根川橋付近）
- (4) 龍ヶ崎市（龍ヶ崎市三夜橋付近）

○ 農業水利施設外来水生植物駆除緊急対策事業（R5年12月補正事業）

農林水産部の補助事業により、ナガエツルノゲイトウの農地への侵入防止フェンスを設置した新利根川と接続する8つの農業水利施設のうち、繁茂が著しく駆除に係る負担の大きい4施設6水路について、ナガエツルノゲイトウの緊急防除事業（土地改良区等への補助）を実施した。

○飼料としての活用を検討（ヤギによる摂食試験）

駆除作業によって発生する大量のナガエツルノゲイトウを活用する手段のひとつとして、乾燥した植物体をヤギに与え、摂食するかどうかを調べた。あらかじめ成分分析を行い、安全性が確認されたものを給餌した。

1回目：令和6年10月16日（水）

- ・乾燥植物体を県立農業大学校で飼育中のヤギ1頭に給餌

2回目：令和6年12月13日（金）

- ・乾燥植物体を民間施設で飼育しているトカラヤギ3頭に給餌

いずれの実験でも食べることは判ったが、嗜好性は高くないと評価された。

（2）特定外来生物 カミキリムシ類とキヨンの防除対策－奨励金・褒賞金制度の創設

○ クビアカツヤカミキリツヤハダゴマダラカミキリ

この数年、特定外来生物のクビアカツヤカミキリとツヤハダゴマダラカミキリが茨城県にも侵入・定着し、クビアカツヤカミキリの幼虫はサクラやモモを中心とするバラ科の樹木を、ツヤハダゴマダラカミキリはヤナギ類を中心とする多種の樹木を食害し、枯損する被害が広がっている。

県は、県自然博物館や（国立研究開発法人）森林総合研究所、近隣県などと情報を共有しつつ、防除対策を進めているが、令和6年5月には成虫の捕獲を促進するための奨励金制度「いばらきカミキリみつけ隊」を創設した。

小学生以上の茨城県民（外来カミキリムシの防除を業として行っている者、国及び地方公共団体、独立行政法人の職員を除く）なら誰でも参加できる。捕獲した外来カミキリムシの成虫を、期間中（6月～9月）に対象の窓口に持参すると、10匹につき500円分の奨励金（汎用プリペイドカード）と交換できる。10匹未満でも「いばらきカミキリみつけ隊」限定グッズ（缶バッジ・エコバッグ）を先着限定でプレゼントする。

多くの県民の協力により、9月末までに3,782匹の外来カミキリムシを駆除することができた。

○ キヨン

キヨンはシカ科に属する小型のシカで、中国や台湾などが原産地だが、千葉県房総半島の民間観光施設から逃げ出したとされる個体が、1980年代に入って半島南部を中心に定着している。繁殖力が強く、生息数はすでに8万頭に達したと言われ、国から特定外来生物に指定されている。千葉県内では農作物や家庭菜園を食い荒らすなどの被害が頻発している。

茨城県でも2017年以降、千葉県との境の神栖市で轢死体が見つかったほか、石岡市（筑波山麓）などでも目撃あるいは写真撮影されていて、情報の頻度は増加しつつある。

こうした事態を受け、さらなる侵入や定着を防ぐため、県は令和6年5月に目撃情報提供・捕獲褒賞金制度を立ち上げた。目撃情報に褒賞金を出すのは全国の都道府県で初めてである。具体的には、県内でキヨンの画像か動画を撮影した目撃情報に1件あたり2,000円、捕獲した場合は1頭あたり3万円を支払う。なお、捕獲するには狩猟免許を持ち、市町村から有害鳥獣の捕獲許可を受けている必要がある。

※ 制度開始から令和7年3月末までの目撃情報提供件数は59件だが、キヨンと確認された事例はない。

（3）希少野生動植物の保護

○ 妙岐ノ鼻湿原

妙岐ノ鼻湿原は、オオセッカやチュウヒ等の希少な鳥類の他、300種を超える植物が生息するなど、生物多様性の高いホットスポットである。また、妙岐ノ鼻湿原に生育する茅は良質であり、古くから萱場として採取・利用され、歴史的建造物などの文化財を維持・修繕するために用いられている。このように、妙岐ノ鼻湿原は、人が自然からの恵みを享受しながら、人と自然との共生により好循環が保たれている地域である。

国土交通省霞ヶ浦河川事務所と（独）水資源機構利根川下流総合管理所は、妙岐ノ鼻湿原の貴重な河川環境を保全するため、従来から河川管理行為としてヨシ焼きを主導してきた。令和6年度は、令和5年に霞ヶ浦河川事務所が創設した「妙岐ノ鼻公募型環境管理」制度により、令和7年3月9日に行われ、生物多様性センターからは4名が参加した。

希少植物のカドハリイが生育する妙岐ノ鼻湿原の湖岸部で、2022年にナガエツルノゲイトウの侵入が確認されたため、その分布拡大を阻止するため、関係機関の国土交通省と（独）水資源機構他の協力を得て、除去作業を1回実施した。

実施日／参加者数：令和6年11月7日（木）11名、除去量：45L袋8個

○ コウノトリ

千葉県野田市などが放鳥した複数のコウノトリが、神栖市の利根川下流域に長期滞在するようになった。本年度も神栖市の利根川下流域を始め、県内各所でコウノトリの飛来や営巣活動を観察することができた。神栖市やIPPM-OWS（コウノトリの個体群管理に関する機関・施設間パネル）などの関係機関と保護策に係る助言・意見交換を行うとともに、先進自治体等から情報収集を行った。

① コウノトリ足環装着 神栖市矢田部 人工巣塔（ヒナ4羽）

日 時：令和6年5月21日（火）9:30～12:00

場 所：神栖市矢田部地区 人工巣塔上

内 容：高所作業車で人工巣塔へ上がり、巣内のヒナを捕獲し地上へ降ろして足環を装着するとともに、血液と羽毛などの検体を採取した。ヒナを巣へ戻し、親鳥の帰巣とヒナに不具合がないことを確認した。

実施者：神栖市 参加者 34名



左：クレーン車によるヒナの確保、右：足環装着と検体採取（いずれも神栖市 令和6年5月21日）

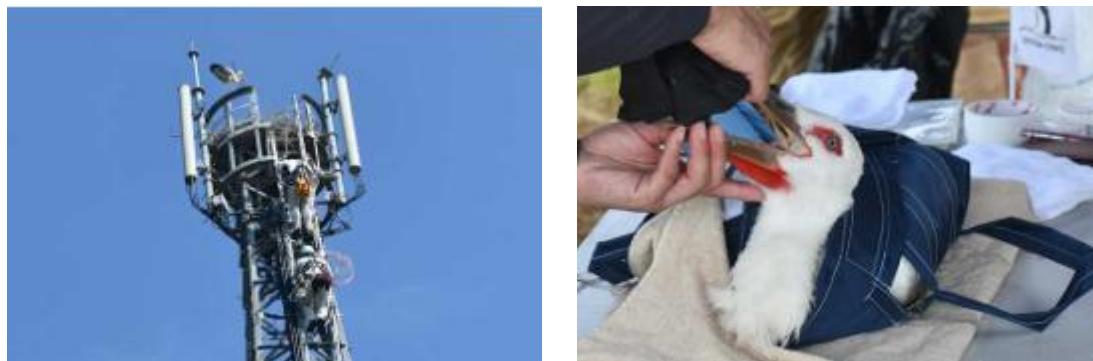
② コウノトリ足環装着 行方市 電波塔（ヒナ4羽）

日 時：令和6年5月21日（火） 14:00～17:20

場 所：行方市三和 モバイル電話電波塔

内 容：作業員がはしごを登り、ヒナを捕獲してコンテナに収容し、地上に降ろして足環を装着した。同時に、血液と羽毛などの検体を採取してからヒナを巣へ戻し、親鳥の帰巣とヒナに不具合がないことを確認した。

実施者：神栖市 参加者 25名



左：作業員によるヒナの確保、右：ヒナの口内検査（いずれも行方市 令和6年5月21日）

③ 令和6年12月23日、神栖市利根川河川敷でコウノトリの採餌場所調査を実施した。

茨城県生物多様性センタ一年報
No. 10 令和6（2024）年度版
発行日：令和7（2025）年8月1日
編集／発行：茨城県県民生活環境部 環境政策課
茨城県生物多様性センター
〒310-8555 茨城県水戸市笠原町 978番6
電話：029-301-1111（代表）